

24 平 清 盛 像

兵庫区切戸町5(キャナルプロムナード)

- ▶ 兵庫津清盛フェスタと清盛像除幕式が、切戸自治会主催による2005年3月20日(日)に開催されました。平清盛をまちのシンボルとして全国に兵庫津の魅力をアピールする狙いで催されました。



25 兵 庫 大 仏

兵庫区北逆瀬川町55(能福寺)

- ▶ 初代の「兵庫大仏」は明治24年(1891)に豪商南条莊兵衛によって建立されたといわれており、奈良、鎌倉と共に日本三大仏に数えられたといえます。昭和19年(1944)、金属回収令で国に供出したため、長い間台座だけになっていましたが、平成3年5月に関係者の尽力により再建され現在の姿になりました。



26 源平ゆかりの地 平 清 盛 廟 所

兵庫区北逆瀬川町55(能福寺)

- ▶ 平清盛は仁安3年(1168)に能福寺で剃髪し入道となりました。治承5年(1181年)に京都で病死し、清盛の遺骨は遺言に従い能福寺の寺領内にあった八棟寺に埋葬され、平相国廟が造立されました。その後、平家の滅亡により能福寺と共に「平相国廟」も灰燼と化してしまいました。平清盛の800年回忌を迎えるに際して、昭和55年に平相国廟がここに復興再建されました。



27 ジョセフ・ヒコの英文碑

兵庫区北逆瀬川町55(能福寺)

- ▶ わが国の新聞の父といわれるジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)が、外国人向けに寺の縁起を記した我が国最初の英文碑です。



<ジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)>

嘉永3年(1850)10月、摂津国大石村(今の神戸市灘区大石)の松屋八三郎が所有する江戸通いの樽廻船「栄力丸」が、江戸からの帰路、太平洋の駿河国(今の静岡県)沖の遠州灘にて漂流状態となり、52日後に日本最南東端の南鳥島沖にてアメリカの捕鯨船「オークランド号」に救助され、13歳の播磨国生まれの彦太郎(後のジョセフ・ヒコ、浜田彦蔵)、岩蔵・慎兵衛ら18人(後、1人死亡)の船員達がサンドウィッチ諸島(今のハワイ諸島)経由で一路、アメリカ大陸を目指して搬送されることとなります。

彦太郎は加古郡播磨町古宮に生まれ、江戸見物もかねて「住吉丸」に便乗して出発、伊勢国・熊野(今の三重県熊野市)で乗り換えた「栄力丸」が江戸からの帰路に嵐で漂流しました。

彦太郎はアメリカ人から「ヒコ」などと呼ばれ、彼は呼ばれるまま素直に「彦蔵」と名乗るようになりました。キリスト教徒として洗礼まで受け洗礼名を「ジョセフ・ヒコ」といいました。

ジョセフ・ヒコはアメリカ大統領に会い、大統領に会った最初の日本人となりました。

帰国したいという意志が強く、キリスト教徒となったジョセフ・ヒコは、アメリカに帰化しアメリカ人として帰国する道を選択します。その許可は驚くほど簡単に下りました。こうして、彼はアメリカ市民権を初めて取得した日本人となりました。安政6年(1859)帰国を果たしましたが、命の危険を感じアメリカに舞い戻ります。再度日本に帰国した時、外国人向けの英字新聞を日本語に訳して発行することを思いつき、この試みが日本の新聞の発祥であるとされます。

明治30年(1897)61歳で波乱の人生に幕を閉じました。

28 豪商 北風正造の碑

兵庫区北逆瀬川町55(能福寺)

- ▶ 北風荘右衛門家は兵庫津の豪商として知られた家でした。66代目を継いだ貞忠(正造)は勤王志士に力入れをしたり、幕府が開港準備の費用を調達のために設立した兵庫商社の肝煎を任命されるなど、その信任は厚かったようです。兵庫津の発展に貢献しましたが、明治20年代に没落し、その跡は失われました。姫路藩が官軍の攻撃を受けて城下町が戦場になろうとした時、彼が仲裁に入り、軍需金15万両と引きかえに紛争を解決させました。現在姫路城(白鷺城)が無傷で現存するのは、貞忠(正造)のお陰かもしれません。



29 滝善三郎顕彰碑

兵庫区北逆瀬川町55(能福寺)

- ▶ 慶応4年(1868)1月11日、神戸三宮において、備前藩兵の隊列を横切ろうとした外国人水兵を刺傷するという事件が起きました。神戸の町は、外国人居留地もあり緊張状態に陥ります。明治新政府は政府が誕生して初の外国人との折衝を「運上所」にて行います。結果、第三砲隊長の滝善三郎が全責任を負い、切腹する事で事件は解決する事に至りました。切腹は永福寺において行われ、同寺において顕彰碑が建てられました。戦災により永福寺が焼失し顕彰碑は能福寺に移されました。

